

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念として「ゆとりある快適な生活環境を提供し、ノーマライゼーション理念のもとで、心身ともに健やかに自立した人生を全うできるように、その環境・年齢及び心身の状況に応じ、地域において必要な福祉サービスを総合的かつ包括的に提供される様に援助することを目的とします。」を作成している。</p>	<p>お一人、お一人がその人らしく過ごして頂けるよう職員全体が理念を念頭おき、今後も支援させて頂きたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関入り口やリビングに理念の文章を掲示し、個々に確認しながら、実現に向けて取り組むよう心がけている。</p>	<p>全ての職員が理念実践へ向けての話し合い、また再確認を繰り返し行えるような場(ユニット会議)を設け自己意識を高めていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>契約時に入居者・ご家族に理念の説明を行い、また、いつでも確認していただけるよう玄関フロアや、リビング内に理念の文章を掲示している。 また、4ヶ月に1回の「のぞみだより」を発行し、入居者ご家族、町内会、地域の方々に送付しホームの状況をお知らせしたり、運営推進会議にて報告している。</p>	<p>今後もご家族や地域の方々により理解していただくことが出来るよう取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所の方への挨拶は行われているが、気軽に立ち寄りといった日常的なつきあいはほとんどみられない。そのようななかでも近所の方から野菜の差し入れがあり、ホームからは手作りの出来立てのパンを食べて頂いたりなどの交流はたまにある。</p>	<p>より親しみやすい付き合いができるよう、挨拶や話かけを積極的に行ってい、行事に参加出来るような環境を作っていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の催しもの(カラオケ教室・絵手紙教室(2週間に1回)・夏祭り・新年会など)に参加させていただいたり、月1回の「パン教室」に町内会の方たちに参加していただき交流を図っている。</p>	<p>今後も催しものには積極的に参加させていただき地域の方たちとの交流を図っていきたい。また、ホームの敬老会、クリスマス会などにも積極的に参加して頂けるよう声掛け行っていく。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>定期的に行う「運営推進会議」に町内会や包括支援センターの方に参加していただき、ホームの状況や地域の状況などの情報交換を行っている。 また、地域包括支援センター主催の町内会の方たちに向けての講習会に参加していただき、ホームの状況などを伝えている。</p>	<p>今後も「運営推進会議」などの話し合いの場を通じて取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>スタッフ一人一人が自己意識を高めることができるよう積極的に定期的に自己評価や外部評価の実施を検討していく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>今後も沢山の方に参加して頂き、意見交換の出来る場を作っていけるよう取り組んでいきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>今後もスタッフの研修会への参加を促し、地域権利擁護事業や成年後見制度において必要とされる方がいた場合に、速やかに対応できるよう取り組んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も入居者様の状態を職員一人ひとりが把握し、統一したケアに取り組んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>今後も入居に関してわかりやすい説明を行っていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の中で何でも話ることが出来るよう馴染みの関係作りに取り組み、会話の中や表情・行動にて意見や不満を読み取ることが出来るよう観察している。また、町内会の催し物や町内会の方たちを招いての「パン教室」にて馴染みの関係作りを図り、話が出来る環境を設定している。利用者からの意見などが聞かれた場合は日々の申し送りや毎月のユニット会議にて検討している。		今後も利用者から気軽に何でも話していただけるよう馴染みの関係作り、又、訴えの困難な方は職員の方で表情から訴えを把握できるよう、日々の状態観察を行っていききたい。又、馴染みの関係が出来ていない新入社員には他の職員から利用者様の特徴などを伝え、訴えの把握に努めていききたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族来所時には暮らしぶりや健康状態を報告し、状態変化時には電話にてその都度、報告・相談をしている。また、毎月1度の「ご家族様への手紙(写真付き)」にて月ごとの金銭状況(預かり金)と1ヶ月の入居者や職員の状況を報告している。		今後も入居者、ご家族に合わせた報告を行い、ご家族により安心していただけるよう取組んでいきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来所時に職員と話す機会を作りコミュニケーションを図ると共に、玄関に「意見箱」、玄関フロア入り口に「苦情処理について」の文章を掲示している。また、「運営推進会議」や「家族会」にてご家族からの意見などを聞かせていただける場を設けている。また、ご家族よりいただいた意見はその後改善できるよう会議などにて話し合い取組んでいる。		今後もご家族が気軽に意見などを話することが出来るよう職員との馴染みの関係作り積極的に取組んでいきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主任会議やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長に提案をしている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者や計画作成担当者が日勤を行ない、日中に4～5人体制とし業務にあたるようにしている		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	病気などで入院となる場合など、休職扱いにし職場復帰できる環境を整えるなど努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>文章などで計画はたててはいないが、研修などを受けに行くよう支援を行ない、またユニット会議などで勉強会を実施し、すぐに実践で役立てる内容を行っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>北海道グループホーム協議会が開催する勉強会などに参加し、同業者と会う機会に話しあいをしている。また、グループホームのぞみ2号館と一緒に行事を行なうなどして交流を図っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個々では施設長への相談は行われているが、まだ全体の職員とはいええない状態であり、ストレスの軽減や解消には至っていないと思われる。</p>	<p>定期的な面談や、悩みや不満を話し合える場を作っていく、ストレスに軽減や解消に努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>毎朝の申し送りや定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、各職員が意欲的に働くことが出来るよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には事前にホームを見学していただき、スタッフや他入居者、居室の作りなどの雰囲気をご本人に感じていただけるよう努めている。また、ご本人と話をする機会を設け、現在の率直な気持ちや今後の希望などを聞き、ご本人が安心して入居の日を迎えられるよう努めている一方で、認知症の症状が重度の方の場合は家族の方に話しを聞き本人の気持ちを汲み取れるよう努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前面談を行い、利用に至るまでの経緯やご家族の不安や希望などを聞く機会を設け、ご本人・ご家族共に安心して入居の日を迎えられるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の窓口を決めて時間を作り対応し、本人が必要とするサービスがあれば助言している。		相談を受けた者は親身に、かつ、迅速に対応していきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の面談にて本人やご家族から希望や要望を聞きスタッフに伝えたと共に、見学にきていただき、ホーム内の案内や他入居者・スタッフの紹介を行っている。また、馴染みの物を使用していただきたいことを伝え(食器類・タンスや布団、設えなど)、本人・ご家族と相談しながら居室の配置を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の行えること、行えないことを職員が把握し、出来ることを一緒に楽しんで行える環境を作っている。また、本人の行えることから他入居者や職員が学んだり、支え合う関係を築くことができるよう努力している。		行えること、行えないことの把握により利用者同士も支え合い生活できる環境づくりを心がけ取り組んでいきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の来所時、定期的な電話や連絡、毎月1回のご家族への手紙、誕生会、クリスマス会、敬老会等、ご家族が参加され利用者と一緒に楽しむことが出来る行事を企画し、日常生活の様子を伝えている。その際、ご家族の思いを受容し、協力関係を築いていくことができるよう努力している。	○	家族会を定期的に開催し、同じ立場の家族同士で話し合える環境を作れるよう取り組んでいきたい
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご家族の来所時などに日常の利用者の様子を伝えると共に、昔の思い出話などを聞き、どのように過ぎてきたのかを理解し、また、誕生会や敬老会など行事時にご家族への参加を促し、利用者のご家族が交流できる場を設定・提供し、よりよい関係を築いていくことが出来るよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	生活歴から得た情報やご家族からの話や本人からの話しを活用し、出来るだけ本人のそれまでの生活を継続することが出来るよう支援している。		開設してから5年以上経過し利用者様の理解力の低下もみられているが、お一人お一人が安心し、尊厳のある生活を送って頂けるようこれからも努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の利用者の表情や言動を観察し、利用者同士の関係を把握するよう努めている。また、日常生活に職員が間に入り、会話などの支援をし、馴染みの関係を支えるよう支援している。		利用者の一部では助け合う様子もみられており、職員も含め全体で支えあい生活し馴染みの関係を築いていけるよう取り組んでいきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても入院されている時はお見舞いへ行っています。現時点では継続的な関わりを希望されるご家族はいない状況です。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしやご家族からの情報にて希望や思いをくみ取り、把握に努め出来る限り対応している。困難な場合でも利用者様の表情等、ご家族からの情報をもとに職員全員が常に意見交換できる場を作り対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	契約時に家族へ等の大切さを説明し、協力をお願いし、これまでの暮らしの情報収集を行っています。また、ホームでの生活の中で利用者様とのコミュニケーションやご家族が来所された際に話を聞く等しながら随時収集しています。		今後も生活の中から多くの情報を得ることができるよう努力していきたいです。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人・ご家族から教えていただいたり、職員全員で日々の利用者の観察を行い、それをもとに利用者のアセスメントを行っている。アセスメントから1日の過ごし方や心身状態、有する力などを把握し、利用者様の負担にならないかを常に確認しながら自立への支援を行っている。		訴えることが困難な方は、日々の関わりから思いをくみ取れるように職員での情報交換を大切に行っていきたいです。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全職員で利用者様やご家族、必要に応じて医師からの希望や要望、指示を収集して、毎日の申し送りや毎月のユニット会議で情報交換を行っている。また、毎月のユニット会議で担当職員・介護支援専門員、計画作成者を中心に介護計画の見直しや作成を行い、実行に努めている。		今後も利用者様にとって何が一番必要なのかを常に念頭におき計画作成していきたいです。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>職員全員にて日々の生活や病院受診、ご家族来所時等から状態や情報の収集を行い、毎日の申し送りにて意見交換を行っている。毎月のユニット会議にて各担当職員や介護支援専門員、計画作成者を中心に介護計画の見直しを行い利用者の状態に合わせた計画を作成している。</p>		<p>今後も介護計画の実施期間に「とらわれることなく、都度見直しを行い、小さい状態、変化にも気付くことができるように日々職員全体での情報交換をしていきたいです。</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録は、介護計画を中心に介護計画をいかすことができるように各職員がそれぞれ具体的な報告や記入を行っていると共に、連絡・病院受診・家族連絡ノートに詳しく記入し、各職員が確認している。会議時にはそれらをもとに全職員にて検討し介護計画に活かしている。</p>		<p>今後もより具体的な記録の記入と見直しを行い介護計画にいかしていきたいです。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>日々の団楽やコミュニケーションの中から利用者様の希望や要望を聞きだすと共に、ご家族来所時等に日々の状況を説明し意見や要望を速やかに取り入れることが出来るよう、職員間の連絡を密にし、介護計画に反映し、柔軟な支援を行っている。</p>		<p>今後利用者様やご家族とのよりよい関係を築き、情報交換や相談を行いながら柔軟な対応を行なって行きたいです。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>開設時より、周辺地域の施設(警察)へホームの情報を伝え、ホームの理解を広げるよう働き掛けを行っている。また、定期的に消防の職員同伴での避難訓練を行っており、その都度情報を提供することで、協力を得られるよう働きかけています。</p>	○	<p>今後は近隣の方や町内会にも情報を提供し理解や協力を得られるよう積極的に働きかけていきたいです。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>包括支援センターや他のケアマネジャーと日頃から連携を取っています。</p>		<p>常に地域のケアマネジャーやサービス事業所と連携を取り、より良いサービスを受けられるように支援を行なって行きたいです。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>定期的に行っている「運営推進会議」に参加していただき、利用者の状況や活動の報告、支援センターからの情報をいただいたり、必要に応じて連絡を取り合っています。</p>		<p>地域支援センターとの連携を図り、より良い関係を保ちながら共同して行きたいです。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用相談時にかかりつけの病院や医師を確認すると共に、協力病院の紹介と説明を行い、入居後のかかりつけ医を本人・ご家族と相談している。また、入居前の説明にて24時間の医療連携体制を行うことを納得していただいている。また、協力病院の定期的な往診もあり、各かかりつけ医と随時状態を報告しながら支援しています。		今後も入居者様・ご家族への相談を行ない、希望に沿った衣料を受けることが出来るよう支援していきたいです。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師を招いての勉強会や相談を行いながら、指示や助言をいただいている。		今後も入居者様の日々の状態観察に速やかな対応を心がけ取り組んでいきたいです。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制として協力病院から看護師に来て頂いており、利用者とのコミュニケーションを図りながら日々の健康管理を行うと共に、職員間の情報交換を密に行い、状態に応じた医療機関への支援を行っています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院が決まった際には、職員が付き添い日々の生活状況や身体、精神状態を報告している。また、定期的に病院へ面会に行き、本人やご家族と話したり病院関係者との情報交換や相談を行っている。退院が決まった際には病院関係者と職員にて引継ぎを行っています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居前の相談や契約時にご家族に確認しその後は本人の状態に応じてご家族に確認や相談を行っている。日々の会話の中でなげなく本人に確認している。また、病院受診時に状態の確認を行いながら必要にあわせて医師に確認を行い、その後全職員に報告し共有に努めています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	必要時は、かかりつけ医・看護師・ご家族・施設長・職員にてカンファレンスを定期的に行い、その後、全職員に報告している。また、日々の申し送りにてその日の状態に応じた対応の方法や医師への連絡をこまめに行っている。その他にも対象となる方の個人の連絡ノートを作り、状態観察を密に行っている。利用者がホームにて日々をより良く過ごすことが出来るよう取り組んでいる。		今後も重度化や終末期に向けた方針を共有できるように、入居者様やご家族、かかりつけ医との定期的な話し合いを積極的に行なっていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	開設から現在に至るまで、自宅へ戻られたというケースが一度あり、その際には今後の生活に関する支援を、家族、本人に十分に説明を行っている。		今後もこのようなケースがあった場合は話し合いの場を設け、取組んでいきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者様の性格、現在の状態を把握し、一人ひとりを尊重し声掛けなどに注意をし、対応を行うように心がけている。個人情報に関してはプライバシー確保に努めている。必要な場合に関しては、契約時に個人情報利用同意書にもとづいての説明を行い、ご家族から同意をいただいている。	○	日ごろより、スタッフ間で確認を行いながら、利用者を尊重した言葉使いで対応をしているが、時には行き過ぎた声掛けなどにより気分を害してしまう時があるかもしれないので、今後もスタッフ全員が言葉遣い、利用者様への対応がしっかり出来ているかを確認できる場(ユニット会議など)を設け、誇りやプライバシーの確保を徹底して行ってきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	コミュニケーションを密にとりスタッフに対して、思っている事、現在やりたい事、希望などを話せる環境作り、関係作りを常に目指し行っている。また、情報交換もスタッフ間で常に行いながら、利用者一人ひとりの心身の状態の把握に努め、利用者それぞれにあった説明や選択の場を提供し、納得や自己決定を行いながら生活していただけるよう支援している。		利用者様の思いをくみ取れるよう、職員全体での情報交換を密にこれからも行っていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の過ごし方はあるものの、入居相談時や来所時などに、ご家族から生活状態を御報告していただき、日々の観察やコミュニケーションから本人の希望を聞きだし、出来るだけ本人の希望にそった馴染みのある生活を送っていただけるよう、入浴や就寝、食事のペース、その他の時間の過ごし方などを支援している。		今後も決して職員側の決まりや都合を優先してしまうことがないよう、スタッフ間で確認の場(申し送りやユニット会議)を定期的に設け、利用者のペースや生き方を尊重し大切に支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人や家族に希望や馴染みの店があるか確認し、特に馴染みの店がない場合は本人やご家族と相談しながら身体状態に合わせて出張美容や、地域の美容室を利用している。また、イベント時には、女性スタッフが女性利用者に化粧などの支援を行い、男性スタッフは男性利用者に希望にそったおしゃれができるように声掛けを行い、毎回大変喜ばれている。		イベントに限らず、普段から化粧・身だしなみなどの支援を行い、心の活性化に努めていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	医療的に食事の制限がある方は、本人に説明を繰り返し行い、納得していただけるよう努めており、利用者様も納得されている様子は見られている。それ以外に関しては、入居前から現在に至るまで食事ごとに嗜好や味付けなどの確認をスタッフ間で行い、食事を美味しく摂取していただけるよう心掛けている。時には、希望を聞いて、カップラーメンなどを食べることもある。また、昼食、夕食は利用者の出来ることを考慮しながら、一緒に準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲みながら楽しく食事を摂取していただけるよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居時に嗜好調査を行い、本人やご家族から希望を確認し、おやつや飲み物に関しては個人の好みに合わせて別メニューにて対応している。喫煙者、喫煙希望者が現在はいないが、喫煙者が入居されたり、希望者が出てきた場合の為に、喫煙場所の確保はできている。毎日飲酒される方もいないものの、行事などの際に飲酒の確認を行い、医療的に問題のない方には飲酒を楽しんでいただいている。		利用者の嗜好も変化していくと思われる為、今後も、日々の団楽やコミュニケーションにて嗜好や利用者様のリクエストを聞きだし、その時々に合わせて支援を行っていきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄に介護が必要な方に関しては、排泄表などを作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を損なうことがないよう配慮しながら清潔保持に努めている。		今後も常に排泄パターンの把握を行い、少しでも失敗の減少、オムツの使用の減少に繋がるよう支援していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	男性利用者様1名は希望にて1日置きに午前中に入浴されており、基本的には1日の午後が入浴の時間になっているが、入浴の時間(午前中や夜間)や間隔(毎日や日おき)は利用者の希望に合わせて心地よく入浴していただけるように支援している。		スタッフは入浴の前の声掛けに注意し、その時の身体、精神状態を常に把握し利用者の負担になることがないように、支援を行ってきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人やご家族から生活習慣(就寝や起床時間、昼寝など)を教えていただき、入所後、数ヶ月～数年の方は職員全体で一人お一人の睡眠時間の把握を行うと共に、使い慣れた寝具やパジャマなどを使用することで安眠していただけるよう支援している。また、不眠の場合はその時の状況に応じて一緒にテレビ視聴や飲食をしながら話を傾聴し安眠できるような促しを行っている。		日中でもお部屋や畳で布団を敷いてゆっくりと休んでいただける環境づくりを心掛けていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の生活の中から得意なこと、出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせてそれぞれ役割として家事作業を行っていただいている。(モップかけ・手すり、テレビ、テーブル拭き・調理・食前後の準備や片付け・洗濯物たたみなど) また、外出希望がある方にはスタッフと2人でのゆったりとした外出や町内会の催し物(カラオケ、絵手紙教室)や美容室、散歩などにて気晴らしをしていただいたり、今昔に問わずゲーム、習字などをしていただき支援を行っている。天気の良い日には、玄関などでおやつ時間を過ごしてもらっている。	○	今後も、利用者一人ひとりの性格や力量、状況に合わせた役割分担をしっかりと見極め、余暇活動の支援を行ってきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人からの希望がある場合は、ご家族と相談の上にお金を所持していただき、買い物や自販機での飲み物の購入をしていただいている。その際、商品の選択、レジでの支払いなども見守りや手助けを行いながら出来るだけ本人に行っていただいている。スタッフは使用後のお金の管理を毎週行い確認をしている。	○	利用者様が「買い物に行きたい、 が欲しい」とスタッフに対して話せる環境づくりを常に行ってきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出(買い物、散歩、美容室など)の希望時には、出来るだけ希望に沿うことが出来るよう、職員間での相談を行い支援を行っている。利用者の希望と病院受診などが重なった場合に外出が出来ない時は、利用者とその旨を説明し、外出の日を決めて理解・納得していただけるよう心がけている。		希望時に外出が出来ない状況のときに、利用者の不安や不満に繋がることがないように、理解・納得していただけるまで繰り返し説明を行い、スタッフと利用者様の間に溝が出来ないように配慮していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行ってみたい場所を教えてください、企画担当者が企画を立てている。舞踊鑑賞、お花見やさくらんぼ狩り、紅葉狩りなどの外出支援を行っているが、御家族の参加はない。		利用者が行きたい場所を聞き出し、出来る限り希望にそった企画を立てていき、今後はご家族の協力も得ながら外出支援を行っていききたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望をされる方には繋ぐ介助や見守りを行いながら自由に電話を利用していただいている。(ご家族や親戚など)。手紙に関しては、送付の希望者はいないが、ホームに届いた手紙は希望があれば本人に読んで聞かせるなどの支援を行っている。		職員からの声掛けにて、電話をかける、手紙を出すなどの支援を積極的に行っていききたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問に関しては、時間帯などは決めておらず、いつでも訪問したい時に自由にきていただいているが、夜間に関しては他利用者の就寝や施錠の関係にて、出来る限り電話等で事前に教えていただけるよう協力をお願いし訪問していただいている。また、訪問の際にはリビングだけではなく居室など好きな場所でお茶などを飲みながらゆっくりと団楽していただけるような場を提供している。		今後も来訪者が気軽に訪問でき、ゆっくりと話ができるような環境作りにも努めていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内に「身体拘束委員会」を設置しており、定期的な確認を行いながら全職員が身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいるが、本人のケガへの危険性(ベットの柵使用)や精神的に安定した日々を過ごすための向精神薬の服用など、御家族との相談の上やむをえず使用している。		今後も委員会の定期的な開催にて身体拘束の意義を考え、第一に利用者の人権を尊重した支援を行えるよう今後も取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の自由な生活を守り、ご家族、来訪者にて心理的な圧迫をもたれることがないよう居室及びすべてのドアの施錠は行ってない。夜間に関しては、ご家族などの来訪の予定がない場合は20:00を目安に玄関の施錠を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングには必ず、見守りの職員を1人以上配置し、リビングにて団楽などを行いながら利用者の安全に配慮を行っている。また、夜間は定時の巡回には利用者の安全や入眠状態の確認を行っている。歩行不安定な方で不眠による徘徊がある場合は傾聴し、時には巡回に同行して頂き転倒のないよう見守りを行っている。		巡回へ同行して頂く際には十分に他者様のプライバシーに配慮しながら行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室内の所持品については利用者の個々の状態に合わせて対応を行っている。また、認知面の進行などにて今後注意が必要となる物品に関しては申し送りやユニット会議にて取り組みを検討している。保管場所や管理方法に関しても話し合い、徹底管理を行っている。		今後も利用者の心身の状態に合わせて所持品の保管や事故防止に努め、利用者の安全に配慮していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ユニット会議の中で取り上げたり、定期的な防災訓練などにて必要な知識を学び、個々の状態に合わせた介助や誘導にて事故防止に努めている。また、転倒などがあつた場合には「インシデント報告書」「事故報告書」を作成し会議にて検討して、再発防止に取り組んでいる。		今後もユニット内での事故防止に対する意識を継続し、知識の向上に努めていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練は行っていないが、急変時対応マニュアルを作成し、すぐ見えるところに保管し全職員に周知している。		ユニット内での勉強会開催や、応急手当などの勉強会に積極的に参加し、知識の向上に努め、更に訓練も行っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防職員に立ち会っていただいた訓練や、またホーム内での避難訓練(日勤帯、夜勤帯での火事や地震)を定期的に行っている。運営推進会議にて避難訓練の報告を行い、町内会の方々への協力を働きかけている。また、町内会の催し物に利用者の方と共に参加させていただき地域交流を図っている。		今後は、ご家族や地域の方々へ避難訓練に参加していただけるよう働きかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ユニット内にて利用者一人ひとりに対するリスクを話し合い、最善の対応を考慮し、その旨をご家族に説明・相談し同意をいただいている。		今後も利用者の気持ちになり、一人ひとりの状態・能力に応じた介助や対応を検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタル測定や、食事量、尿量、排便確認、表情や行動の観察を行い、異変時はご家族に連絡し、必要時はご家族同意のもと、病院受診を行っている。また、その都度の報告を毎日の申し送りや連絡ノートに記載し情報を共有を行ったり会議にて今後のケアを検討している。		今後も利用者の体調の変化に迅速に「対応していけるよう職員間の連絡を密にして行きたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人ひとりの「予薬一覧表」を作成し、都度の確認を行っている。また、薬の管理も利用者の手が及ばない場所に保管し、内服薬の紛失、誤薬がないよう努めている。		服薬時の確認、また、内服薬変更時にその薬の作用・副作用の理解に努めていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日々の排便確認、毎日の体操、また、個人に合わせて牛乳や野菜、食物繊維の食べ物等、排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘のひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬使用などの対応を行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアや定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また、口腔内の異変時には歯科医院に往診に来て頂いている。		口腔内異常は食欲への影響も考えられる為、虫歯、義歯の不具合に加え、口内炎等にも注意し支援を行って行きたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食時の食事量の確認や日勤帯・夜勤帯での水分量の確認に努めている。食事内容に関しては、献立委員を配置し栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。日々の観察にて食事、水分量が少なかったり、毎月1回の体重測定にて大幅な増減のあった方に関しては、スタッフ間にて話し合いを行い、個々の嗜好に合わせて食事やおやつの時間に果物や好きなものを摂取して頂いている。又御家族や、医師に相談しながら、利用者の状態に合わせ、おかゆ、きざみ、ミキサー食等で対応している。		食欲のわくような盛り付け等にも工夫しながら取り組んでいきたい。IVH対応となっている方に対しても少しでも長く口腔摂取が続けられるよう支援して行きたい
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	「感染症予防マニュアル」や感染時の対応を勉強会等で行い、知識の向上に努めると共に、手洗い後のタオルをペーパータオルにしたり、「ヒビテン」や「メイプルラビング」などを使用している。また、毎年ご家族の同意のもとに「インフルエンザの予防接種」等を行っている。		今後も定期的に勉強会を開催し、常に新しく正しい情報を熟知していきたい。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材に関しては週2回の買出しを行ない、賞味期限の短いものやパンなどは当日購入するようにして新鮮なものを提供しています。また日々の台所清掃・調理器具の消毒を行ない衛生管理に努め、食中毒の予防策や対応をスタッフで話し合うと共に勉強会を行なっています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム横に芝生を設置したり、ホーム周辺を塀などで囲まず、見やすい表札を設置してたり。ご家族・近隣の方々が安心して出入りしていただけるような環境作りを行っている。		近隣の方々に気軽に立ち寄っていただけることは現在少ない状況となっている。今後、より親しみやすい付き合いができるよう挨拶や話しかけ、環境設定を行い、気軽に立ち寄っていただけるような日常的な付き合いに努めていきたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビの音量や光の入り方など利用者の意見を取り入れ、自由に調節できるよう配慮している。また、季節のもの(花・ササ・すすき)など飾り季節を感じていただけるよう配慮しています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	構造上、リビング内には1人になれる空間がないが、各居室や、リビングの端にある座敷、または入り口横の事務室にて過ごしていただいている。また、食卓での座席やリビング内では利用者同士の相性も考慮し、安心して過ごしていただけるよう、工夫している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者やご家族と相談しながら、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきていただき、自由に設置していただくことで居心地のよい空間作りに取り組んでいる。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な窓の開閉や、換気扉の使用にて換気を行っている。室内は温度計・湿度計を使用し、入居者様の意見を聞きながら暖房・冷房の調整を行ない、乾燥する季節には加湿器などを使用しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室のドア横、廊下、トイレ、浴室、階段などに手すりを設置。また、浴室内や階段に滑り止めを設置しています。		今後も、各利用者の認知や身体状態の変化に合わせてながら、その時にあった環境を検討し、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫していきたい。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室の前に表札や造花などを目印に設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう工夫している。		各入居者様の状態に合わせてそのときにあった環境を検討していきたいです
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム横の芝生や公園にておやつを頂いたり、ベランダからは家庭菜園も見え、野菜などを栽培することで、利用者と、草取りや収穫を楽しんでいる。		入居者様の意見を取り入れながら、行事を企画したり、日々の活動を行うことで、より一層楽しみの持てる空間作りに努めていきたい。

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98 職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

パン教室を月1回程度開催して、町内会の方にも参加してもらい交流を図っている。自分で作った出来たてを食べて頂いており、皆さん食欲旺盛に食べて頂いています。アニマルセラピーとして猫を2匹飼っています。動物は皆さんの表情を一瞬で笑顔にしてくれます。猫が苦手だと言った方も知らず知らずのうちに猫が大好きになってお世話をしています。